Public Information Department

Jehovah's Witnesses Japan

ステートメント
2024 年 6 月 24 日

「日本のエホバの証人 定量的研究」の主な結果

「日本のエホバの証人 定量的研究」(JWJ-QS)という全国的なオンライン調査を実施した独立調査チームが，予備的所見の結果の速報をリリースしました。[1]（今後の報告書で，詳しい統計分析から得られた最終結果が公開される予定です）。この科学的研究は，日本全国の 150 の会衆のエホバの証人たちの見方，家族生活，幸福について調べたものです。調査結果は，約 7200 人の対象者から匿名で提出された回答に基づいており，あらゆる世代のエホバの証人が，自分の意思でエホバの証人になり，今後もエホバの証人でいると自分の意思で決めていることや，個人としても家族としても満足のいく生活を送っていることを示しています。さらに，回答者の多くが，エホバの証人でない家族との関係を大切にしていること，愛と思いやりのある環境で子どもを育てることを重視しています。「JWJ-QS 調査結果の速報」から抜粋した，調査の主な結果は以下の通りです。

- **教育**：日本の一般集団と同様に，エホバの証人は多様な教育レベルの人々で構成されています。エホバの証人のサンプル集団では，次のようになっています。(1)95%余りが義務教育以上の教育を受けているのに対し，一般集団は 3 分の 2 強，(2)58.4%が高校を卒業しているのに対し，一般集団は 35%，(3) 36.7%が中等教育より後の学校を卒業しているのに対し，一般集団は 3 分の 1 です。

- **就業**：エホバの証人の就業率は，一般集団と同程度です。エホバの証人の就業率は 57.7%で，一般集団では 60.9%です。

- **経済的状況**：エホバの証人の過半数（53.8%）は生活必需品以外のものを買う余裕があり，大多数（84.1%）は生活必需品の購入に苦労していません。食料の購入が困難な人はごく少数（2.4%）です。この調査では，貧困の状況を示すデータは得られませんでしたが，貧困ラインより上の生活をしていると思われるエホバの証人の割合（84.2%）が，一般集団の割合（84.6%）と，さほど変わらないことが示されています。

- **第 2 世代**：サンプル集団のうち 38.9%は，少なくとも片方の親がエホバの証人の第 2 世代です。全サンプルの約半数（53.2%）は，エホバの証人の親を持たない第 1 世代です。

- **バプテスマ**：エホバの証人になると決めるのは，聖書の研究と熟考を重ねた後です。バプテスマを受けた時の平均年齢は約 28 歳で，バプテスマを受ける前にエホバの証人と聖書を 1 年以上学んだ人が最も多く（62.7%），半数近く（48.1%）が 2 年以上学んでいます。ほぼ全員（96.8%）が，エホバの証人になることを自分個人で決定したと回答しました。そのように回答しなかったのは，1.8%だけでした。

- **続ける動機**：サンプル集団がエホバの証人に魅力を感じた当初の理由の上位は，心優しい人柄（39.8%），教理の論理性（37.8%），エホバの証人の家族がいたこと（37%）でした。しかし，ほとんどの回答者にとって，エホバの証人の家族がいることはエホバの証人であり続ける動機にはなっていません。エホバの証人であり続ける理由の第 1 位は「神ともっと親しくなれる」（66.4%）であり，次いで「教えの論理性」（42.9%），「将来への希望」（40.6%）です。「エホバの証人の家族から拒

[1] この調査結果は，https://jwj-qs.jp/ からご覧いただけます。

Public Information Department（広報部門）| 〒243-0496 神奈川県海老名市中新田四丁目7番1号 |
+81 46 211 2858 | pid.jp@jw.org | https://www.jw.org/ja

絶されることへの懸念」と回答したのは 1%未満でした。大多数（96.1%）は，エホバの証人であることを後悔したことは「一度もない」か「まれに」しかないと回答しています。

- **戻った動機**：少数（3.7%）は，エホバの証人との交友をやめたことがありました。そのうちほぼ半数（48.9%）が 4 年以内にエホバの証人と再び交友を持つようになりました。戻ると決めた特に重要な動機は，「神ともっと親しくなりたかった」（90.3%），「人生でより良い選択をしたかった」（89.6%），「エホバの証人の生き方の方が良いと思った」（89.6%）というものでした。エホバの証人の友人（37.7%）や家族（29.9%）との交友が恋しくなったことが戻る重要な動機だったという回答は，比較的低い割合でした。

- **人間関係**：全ての人間関係（**エホバの証人ともそうでない人とも**）において大半は，エホバの証人になる前から良かった，もしくはエホバの証人になった後に良くなったと回答しました。40%以上が，エホバの証人になって配偶者との関係が多少または大いに改善されたと回答し，30%以上が，親子関係が改善されたと回答しました。約 90%が，家族生活に満足していると回答しました。

- **子どもの矯正**：この調査によると，エホバの証人にとって「矯正する」という言葉によく当てはまると思うのは，「教える」（91.7%）や「正す」（90.4%）であり，「体罰を与える」ことによく当てはまるとの回答はわずかでした（2.2%）。親が子どもに体罰を加えるのはどの程度行うのがふさわしいと思うかについて，98%以上が「全くしない」（83.1%），「ごくまれにする」（12%），または「まれにする」（3.1%）と回答しています。全ての世代で，エホバの証人の親はそうでない親に比べて，自分の子どもたちを褒めたり理由を説明したりする傾向が高めでした。

- **性教育に対する考え方**：圧倒的大多数（98.9%）が，性について子どもに教えることは，子どもを性的虐待から守るのに役立つと回答しました。

- **エホバの証人の出版物や教えの内容**：エホバの証人の出版物や教えで親に勧められている行動として回答者の 90%以上が選んだのは，「許すこと」，「レクリエーションを子どもと一緒に行うこと」，「子どもが失敗した時にも，愛していることを子どもに伝えること」，「子どもに自分の意見を自由に話させること」でした。

- **助ける意欲**：高い割合で，緊急に助けが必要な人がいたら助けると回答しました。裕福な人と貧しい人を区別する人はほとんどいませんでした。他の宗教の人（95.1%），子どもの多い家族（92.8%），政府関係者や警察（89.8%），エホバの証人をやめた人（81.9%）に対しても，それぞれ高い割合で，緊急に助けが必要であれば助けたいという意欲が示されました。

- **健康と幸福**：多く（89.2%）は自分の生活への満足度が高く，自分の将来について希望や確信がある（74.2%）と回答しました。かなりの割合で，健康状態は「とても良い」，「良い」または「普通」（78.2%）と回答し，過半数が何らかの運動をしており（57.6%），医師の定期健診を受けています（81.4%）。親は子どもの健康に責任を持つこと（99%），病気になった人は医師に診てもらう必要があること（97.1%）に，ほぼ全員が回答しました。「病気を治してくれるよう神に祈りさえすればよく，治療は一切受け入れるべきではない」という考え方には，98.3%が否定的でした。

- **差別**：この調査により，過去 12 カ月間（2023 年 1 月から）で回答者は，様々なタイプの差別を経験したことが分かりました。95%近くが，エホバの証人について誤り伝えていると感じる報道を目にしたことがありました。エホバの証人であるという理由で，回答者のうち 500 人以上が侮辱の被害に遭い，63 人が雇ってもらえず，54 人が脅しや攻撃を受けたと述べました。

Public Information Department（広報部門）｜〒243-0496 神奈川県海老名市中新田四丁目7番1号｜
+81 46 211 2858 | pid.jp@jw.org | https://www.jw.org/ja

日本のエホバの証人 定量的研究

- 独立調査チームが 2024 年 1 月に実施
- 日本のエホバの証人を対象にした最大規模の定量的研究
- 回答者は 7640 人

主な結論：

- **幸福度：**エホバの証人は個人としても家族としても満足のいく生活を送っており，将来へのポジティブな見方がある。
- **教育：**エホバの証人は多様な教育レベルの人たちで構成されているが，95%以上が義務教育以上の教育を受けている。
- **人間関係：**全ての人間関係（エホバの証人ともそうでない人とも)において，ほとんどが，エホバの証人になる前もなった後も，人間関係は良いと回答した。
- **子どもの矯正：**体罰について，調査に参加したエホバの証人の 98%以上が「全くしない」（83.1%），「ごくまれにする」（12%），または「まれにする」（3.1%）と回答している。
- **差別：**約 95%が，エホバの証人について誤り伝えていると感じる報道を目にしたことがあった。回答者のうち 500 人以上が侮辱の被害に遭い，63 人が雇ってもらえず，54 人が脅しや攻撃を受けたと述べた。
- **動機：**大多数（96.1%）は，エホバの証人であることを後悔したことは「一度もない」か「まれに」しかない。回答者たちがエホバの証人であり続ける理由の第 1 位に挙げたのは，「神ともっと親しくなりたいから」であった。

エホバの証人の日本支部広報部門

Public Information Department（広報部門）｜〒243-0496 神奈川県海老名市中新田四丁目7番1号｜
+81 46 211 2858 | pid.jp@jw.org | https://www.jw.org/ja